

## 「美しいまちづくり」

高松市は、風光明媚な美観都市と紹介されることもあります。実際、瀬戸内海や屋島の自然景観の美しさは、他の何物にも比肩しがたく、国の特別名勝である栗林公園の庭園美は、専門家の評価も高く、日本一だと言う人もいます。

また、サンポート地区と中央通り沿いの街並みは整えられていて、一斉清掃のおかげで、ごみがほとんど落ちていない清潔さも相まって、訪れた人から「きれいな街ですね」とのお褒めの言葉をいただくことが多々あります。さらに、郊外には、独特の形をした里山が点在し、箱庭のような田園風景は、眺める者の心を和ませてくれます。

一方で、牟礼にアトリエを構えていたイサム・ノグチは、空港からアトリエまでの車中では、窓の外景色を見たくないとばかりに、ずっと目をつむっていたとの話を聞いたことがあります。また、栗林公園の樹木の上後方に見えるマンションやビルの壁面、広告物を見て、なぜ規制しないのか、と抗議する外国人も多いと聞きました。

このような声を受け、まず、栗林公園周辺の新規大規模建築物について、昨年三月から、公園内の十一の眺望地点から見えないような位置、または規模とする、などとした景観誘導策を実施し、規制を強化しています。そして、新しい景観法の趣旨に基づいた、より強制力を持った規制のあり方を検討し、環境美化の観点を含めた「高松市美しいまちづくり条例（仮称）」の制定に向けた取り組みを進めているところです。

「都市の美醜は市民の心」。

昭和初期に、東京の桜田門外の警視庁新庁舎の望楼が都市の景観を害すると、その高度を引き下げさせた市民団体である「都市美協会」が市民から募集した標語の一つです。市民が「まち」を意識し、それを良くしようという気持ちを持たない限り、美しい都市景観ができるはずがない（※）、ということです。

私たちが住む、高松市を良くしようと思うこと。そこから美しいまちづくりは始まります。

※「まちづくりと景観」田村明／著（岩波新書）